農業の新しい技術

No.456(平成１２年６月)
分類コード　02－09
熊本県農政部

河内晩柑の後期落果防止技術

農業研究センター　天草農業研究所
担当者:猪原　健一

研究のねらい

河内晩柑は樹勢が弱いと後期落果するため、施肥と水管理及び落果防止剤の組み合わせによる後期落果防止技術を確立し、河内晩柑の生産安定を図る。

研究の成果

1　落果防止剤無散布で 9 月に施肥し、その肥効を高めるため 9 ～ 10 月に潅水を行うと落果率は 9.7 ～ 10.7 %に軽減される。

2　落果防止剤を 10 月下旬(着色 1 ～ 2 分)と 11 月下旬に散布すると、更に、落果率は 2.4 ～ 3.6 %に軽減される。

3　11 ～ 12 月の落果については着色が早い果実ほど落果しやすく、果皮色はやや黄色の果実が落果しやすい。

4　9 月施肥、11 月施肥の落果に及ぼす効果は 9 月施肥が高く、灌水の効果は 9 ～ 10 月が高い。

以上の結果から、河内晩柑の後期落果は 9 月上旬に施肥し、雨が少ない年は肥効を高めるため 20mm 程度の灌水を行い、10 月下旬(着色 1 ～ 2 分）と 11 月下旬に落果防止剤を散布すると落果は防止できる。

普及上の留意点

1　年間を通じ土づくり、施肥、適正着果により樹勢を強化する。

2　落果防止剤(MCPB2000 倍)はむらがないように散布する。

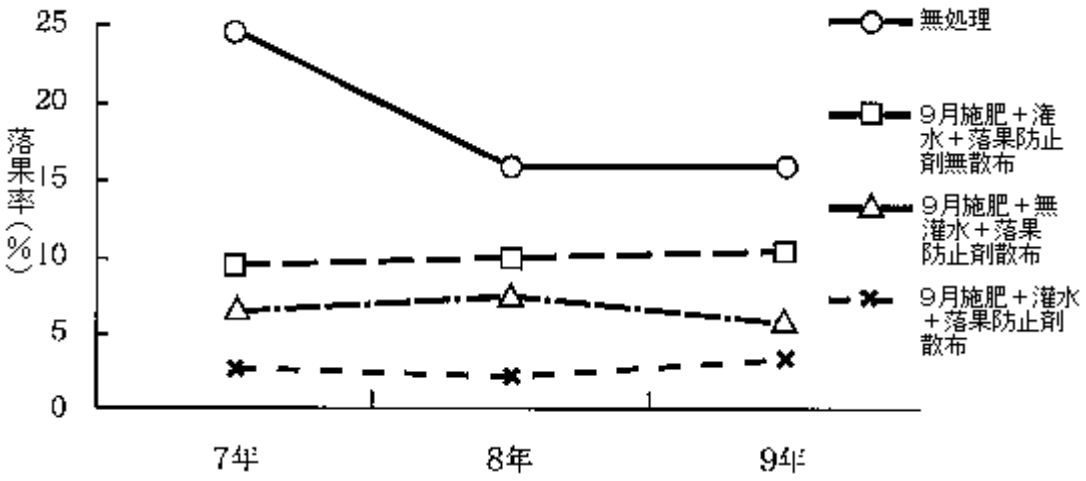

図１　施肥、灌水、落果防止剤の組み合わせによる落果率

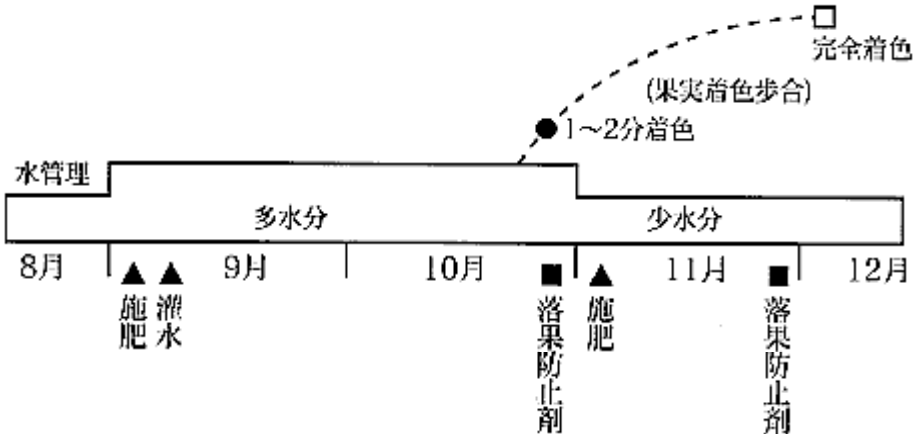

図２　施肥、水管理、落果防止剤の組み合わせによる後期落果防止

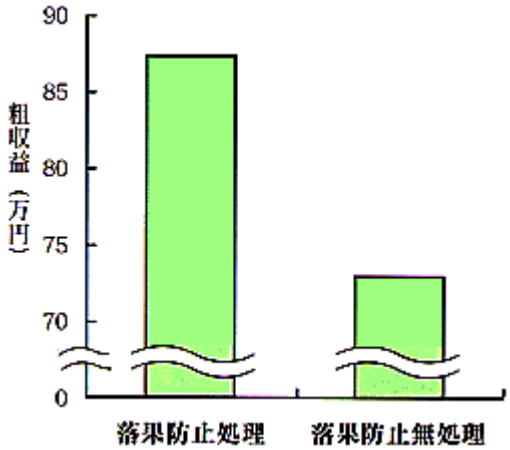

図３　落果防止の経済性（10a当たり）
※収量、手取り単価、落果率から試算

写真１　10月下旬の落果防止剤の散布時期(1分～2分着色時)